

(参考資料) 第3期神戸市教育振興基本計画の進捗状況

【指標1～4 授業改善(「主体的・対話的で深い学び」の実現)】

(重点事業1)

指標1		「授業が分かる(よく分かる・だいたい分かる)児童生徒の割合」				
		令和元年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
小5	国	91.2%	89.1%	82.2%	全教科90%以上	△
	社	85.8%	86.1%	82.3%		
算	87.4%	84.8%	81.2%			
理	92.0%	92.2%	90.8%			
中2	国	86.5%	88.2%	83.1%	全教科80%以上	
	社	77.4%	80.2%	78.0%		
	数	76.4%	79.0%	72.8%		
	理	77.6%	82.0%	79.1%		
	英	73.7%	69.5%	69.9%		
課題認識	目標に比べて、小学校では算数が9ポイント程度、中学校では英語が10ポイント程度下回っており、全体的に昨年度より数値が下がっている。コロナ禍において、コミュニケーションを通じた学びの場が減少していることが起因していると考えられる。					
今後の取組	引き続き「学力向上に向けた視点」を事務局と学校園の全教職員が共有し、児童生徒が学び合う機会を充実させる。特に英語については、ALTとのコミュニケーションの機会を多く設定し、生徒がコミュニケーションの楽しさを実感できる授業づくりに努める。					
指標2		「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う」児童生徒の割合(全国平均との差)				
		令和元年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
小6	全国	77.7%	78.2%	77.3%	全国平均以上	△
	神戸市	76.1% (△1.6ポイント)	76.9% (△1.3ポイント)	74.8% (△2.5ポイント)		
中3	全国	74.8%	81.0%	79.2%		
	神戸市	71.0% (△3.8ポイント)	78.4% (△2.6ポイント)	76.7% (△2.5ポイント)		
指標3		「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」児童生徒の割合(全国平均との差)				
		令和元年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
小6	全国	65.9%	63.5%	65.4%	全国平均以上	△
	神戸市	64.2% (△1.7ポイント)	64.5% (+1.0ポイント)	64.8% (△0.6ポイント)		
中3	全国	55.8%	62.0%	63.3%		
	神戸市	50.1% (△5.7ポイント)	56.3% (△5.7ポイント)	57.8% (△5.5ポイント)		
課題認識	小学校、中学校ともに全国平均を下回っており、学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層進める必要がある。					
今後の取組	児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの問題発見・課題解決の過程を重視した学習活動をより一層充実させる。					

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】

指標 4	授業改善を目的とした「授業研究」の実施回数				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
小学校で3回以上 中学校で2回以上 行っている学校の割合	小75% 中67%	小87% 中74%	小85% 中85%	全校で実施	△
小学校で5回以上 中学校で3回以上 行っている学校の割合	小41% 中45%	小46% 中46%	小40% 中52%		
課題認識	令和4年度は全ての小中学校で授業研究が行われているが、実施回数で見ると、小学校ではやや減少している。教員同士の授業研究は日常的に行われているが、学校全体としての授業研究は、実施回数を増やせていない状況である。				
今後の取組	授業研究の形態を工夫（オンラインやオンデマンド配信など）し、集合型以外での実施や、授業研究にかかる時間の短縮等により、効率的な授業研究を行えるようにすることで、実施回数を増やし、授業改善につなげていく。				

【指標5～6 基礎学力の定着】

(重点事業1)

指標 5	全国学力・学習状況調査における正答率4割以下の層の割合（全国平均との比較）						
	令和元年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗		
小6	国語	全国	19.0%	14.3%	15.0%	0.9倍未満に 改善	△
		神戸市	17.5% (0.92倍)	14.1% (0.99倍)	14.5% (0.97倍)		
	算数	全国	12.3%	11.1%	17.8%		
		神戸市	13.5% (1.10倍)	10.4% (0.94倍)	17.7% (0.99倍)		
中3	国語	全国	15.4%	11.9%	10.2%		
		神戸市	14.2% (0.92倍)	10.8% (0.91倍)	11.3% (1.11倍)		
	数学	全国	23.3%	25.0%	33.7%		
		神戸市	26.1% (1.12倍)	21.8% (0.87倍)	30.3% (0.90倍)		
課題認識	中学校数学は令和5年度末の目標基準である0.9倍、小学校国語・算数は全国平均並みである一方、中学校の国語は全国平均を超えている。一人一人の学習状況に応じた指導の充実が必要である。						
今後の取組	授業や放課後学習においては学習指導員と連携し、個々の児童生徒の状況に応じたきめ細かな指導をするとともに、家庭学習においては、デジタルドリル等を活用するなど一人一人に応じた学びを推進する。						

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】

指標 6			全国学力・学習状況調査における記述問題の無解答率（全国平均との差）				
			令和元年度	令和3年度	令和4年度	（目標値）令和5年度末	進捗
小6	国語	全国	7.7%	6.4%	9.9%	全国平均以下	△
		神戸市	8.9% (+1.2ポイント)	5.4% (△1.0ポイント)	9.0% (△0.9ポイント)		
	算数	全国	5.7%	6.7%	5.0%		
		神戸市	6.1% (+0.4ポイント)	5.3% (△1.4ポイント)	5.9% (+0.9ポイント)		
中3	国語	全国	6.2%	14.1%	12.8%		
		神戸市	8.0% (+1.8ポイント)	14.6% (+0.5ポイント)	16% (+3.2ポイント)		
	数学	全国	17.1%	21.1%	22.1%		
		神戸市	18.2% (+1.1ポイント)	21.7% (+0.6ポイント)	24.4% (+2.3ポイント)		
課題認識		小学校国語では、記述問題の無回答率は全国平均以下となった。小学校算数、中学校は全国平均を上回っており、自分の考えをまとめ表現する力の育成が課題である。					
今後の取組		語彙の確実な習得だけでなく、意見と根拠、具体と抽象をふまえて考えるなどして情報を正確に理解し、論理的な思考力と適切な表現力を育成するために、各教科等において言語活動の充実を図る。					

【指標 7 さらなる学力の伸長】

（重点事業 1）

指標 7			全国学力・学習状況調査における正答率 8 割以上の層の割合（全国平均との比較）				
			令和元年度	令和3年度	令和4年度	（目標値）令和5年度末	進捗
小6	国語	全国	26.4%	24.3%	28.4%	1.2倍以上	△
		神戸市	25.6% (1.0倍)	24.4% (1.0倍)	30.5% (1.1倍)		
	算数	全国	28.5%	42.8%	30.2%		
		神戸市	32.8% (1.1倍)	44.3% (1.0倍)	32.3% (1.1倍)		
中3	国語	全国	55.4%	20.9%	31.1%		
		神戸市	56.2% (1.0倍)	21.3% (1.0倍)	30.7% (1.0倍)		
	数学	全国	30.5%	20.7%	13.0%		
		神戸市	35.0% (1.1倍)	21.9% (1.0倍)	15.8% (1.2倍)		
課題認識		中学校の数学においては、令和5年度末の目標数値である全国平均比1.2倍を達成している一方で、国語については課題が見られた。発展的な学習に取り組む機会が十分でないとする。					
今後の取組		習得した知識を活用して、問題を解決する力や思いや考えを基に創造する力を身に付けるため、発展的な学習を取り入れた授業への改善を図る。また、児童生徒一人一人に応じた家庭での学習習慣の確立に向け、家庭学習の手引き等を活用し、児童生徒、保護者への啓発に一層努める。					

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】

【指標 8～9 自己肯定感と教師の関わり】

(重点事業 2)

指標 8		「自分にはよいところがあると思う」児童生徒の割合 (全国平均との差)				
		令和元年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
小6	全国	81.2%	76.9%	79.3%	全国平均以上	△
	神戸市	82.7% (+1.5ポイント)	77.3% (+0.4ポイント)	78.2% (△1.1ポイント)		
中3	全国	74.1%	76.2%	78.5%		
	神戸市	75.9% (+1.8ポイント)	75.9% (△0.3ポイント)	78.2% (△0.3ポイント)		
課題認識		小学校6年、中学校3年ともに、目標は達成していないものの、「自分にはよいところがあると思う」児童生徒の割合は、前年度より改善している。自己肯定感・自己有用感を育てるため、学校教育活動の一層の充実を進める必要がある。				
今後の取組		児童生徒の自己肯定感・自己有用感を高めるため、自分の考えを表現し、理解してもらい経験を積むことができるように授業内容を工夫する。また、自然学校などの体験活動やトライやる・ウィーク等の職業体験活動など、学校生活の様々な場面で自己肯定感や自己有用感を育てよう取組を進めていく。				

指標 9		「先生は自分のよいところを認めてくれていると思う」児童生徒の割合 (全国平均との差)				
		令和元年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
小6	全国	86.1%	※令和3年全国学力・学習状況調査の項目から外れたため比較できず 【参考:神戸市学習状況調査】 小4 83.0% 小5 82.6% 中1 80.9% 中2 82.6%	87.1%	全国平均以上	△
	神戸市	83.3% (△2.8ポイント)		83.0% (△4.1ポイント)		
中3	全国	81.5%		86.6%		
	神戸市	79.6% (△1.9ポイント)		83.8% (△2.8ポイント)		
課題認識		小学校6年、中学校3年ともに、目標を下回った。児童生徒たちにとって教師との関わりは、安心感や自尊感情に大きく影響するため、児童生徒たちの不安な気持ちに寄り添い、丁寧且つ細かに接する必要がある。				
今後の取組		児童生徒へ毎日の言葉がけを行うとともに、作文等の振り返りの活動を通じて、一人一人の心の変化をくみ取り、寄り添うように努める。また、様々な教育活動の中で児童生徒が輝ける場面を仕組み、教師が認め誉める言葉がかけられる場面を増やしていく。				

【指標 10 教育相談の実施】

(重点事業 8)

指標 10		「育てる教育相談」推進に向けた校内研修実施割合				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
「スキル演習」への参加校		小58.3%(95/163) 中68.3%(56/82)	小58.9% (96/163) 中70.7%(58/82)	小62.0% (101/163) 中72.0%(59/82)	全小中学校で実施	△
課題認識		令和2年度からのコロナ禍により、実践演習を含む研修の実施を辞退する学校が多かったため、計画通りに実施割合が増えていない状況である。				
今後の取組		講義部分の一部についてビデオ視聴を可能とし、学校の状況にあわせて、ビデオ・実践演習・講義の組合せを自由に選択できるようにすることで、全校実施できるようにしていく。				

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】

【指標 11～12 健やかな体の育成】

（重点事業 3）

指標11	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の全項目				
	令和元年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
全国平均到達項目	全34項目中3項目	全34項目中4項目	全34項目中10項目	全項目	△
課題認識	全国平均を下回る傾向が続いているが、改善傾向が見られる。運動意欲（「体育の授業が好き」と回答した割合）は全国平均を上回っている。この高い運動意欲を体力数値につなげるような取組の工夫が必要である。				
今後の取組	体育の授業では、学習用パソコンを活用して体力調査の結果や日常の運動記録を入力し、児童生徒が自身の課題を発見するとともに、自身の伸びを実感できるようにする。また、民間人材等を活用し、授業中や放課後に希望種目の運動教室を行う等、授業以外の場面でも運動する機会を確保する。				

指標12	中学校部活動の活動内容満足度				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
	89.0%	88.0%	84.0%	毎年80%以上	○
課題認識	「満足である」「どちらかと言えば満足である」と回答した生徒が84%となっており、目標を達成している。				
今後の取組	「神戸市立中・義務教育学校部活動ガイドライン」に沿って部活動が実施できているかどうか、引き続き、部活動状況調査等による実態把握に努める。				

【指標 13～15 特別支援教育の推進】

（重点事業 4）

指標13	「個別の指導計画（※1）」や「ネットワークプラン（※2）」の確実な引継ぎと活用				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
	小→中への引継ぎ 88% (内訳) ・「個別の指導計画」「ネットワークプラン」の両方 68% ・「ネットワークプラン」のみ 20% 中→高への引継ぎ 80% (内訳) ・「ネットワークプラン」53% ・その他の引継ぎ様式 27%	小→中への引継ぎ 93% (内訳) ・「個別の指導計画」「ネットワークプラン」の両方 47% ・「ネットワークプラン」のみ 46% 中→高への引継ぎ 90% (内訳) ・「ネットワークプラン」67% ・その他の引継ぎ様式 23%	小→中への引継ぎ 96% (内訳) ・「個別の指導計画」「ネットワークプラン」の両方 58% ・「ネットワークプラン」のみ 38% 中→高への引継ぎ 92% (内訳) ・「ネットワークプラン」72% ・その他の引継ぎ様式 20%	100%	△
課題認識	通常の学級に在籍している児童生徒の「個別の指導計画」や「ネットワークプラン」について、引継ぎが不十分になっていることがある。				
今後の取組	管理職研修、担任者研修、コーディネーター研修を通じて、その意義や必要性について周知徹底を図り、確実な引継ぎを進めていく。また、引継ぎの入口である5歳児の保護者に「ネットワークプラン」を確実に作成いただくよう徹底していく。				

※1 学習面や生活面での単年度目標（学期ごと）を設定するもの。

作成対象は特支校・特支級・通常学級（通級による指導を受けている）在籍者に加え、特別支援教育相談センターを利用している児童生徒。

※2 長期的な視点での目標や療育状況について記載するもの。

他機関とも連携し、一貫した支援を行うことを目的に作成。作成対象は特支校・特支級・通常学級（通級による指導を受けている）在籍者に加え、特別な教育的支援を必要とする児童生徒。

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】

指標14	通級指導教室の設置				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
自校通級教室数	19教室	29教室	39教室	50教室	○
課題認識	通級指導が必要な児童生徒数の増加に対応するため、自校通級指導教室を含めた通級指導体制の再構築を図る必要がある。				
今後の取組	教員配置や人材育成の状況を踏まえながら、約100教室程度を目標に自校通級指導教室の整備を進めるとともに、通級指導体制のあり方について検討する。				

指標15	特別支援学校高等部知的障害部門卒業生就労率(※1)				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
	14.0%	12.0%	15.7%	15%以上	○
課題認識	特別な配慮を要する中学校卒業生の進路が多様化していることをふまえ、生徒の特性や家庭環境を考慮し、就職後の定着を考えたマッチングを丁寧に進めていく必要がある。				
今後の取組	一人一人の生徒の能力を最大限に引き出すため、就労支援プログラム推進事業の一層の充実を図り、作業学習やキャリア教育を推進する。				

※1 就労率 = (企業就職 + 就労継続支援A型) / 卒業者数

【指標 16～17 高校・高専教育の特色化の推進】

(重点事業6)

指標16	市立高校生の学校生活満足度				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
全日制	平均84%	平均85.3%	平均85.7%	毎年平均90%以上	○
定時制	平均80%	平均86.1%	平均88.0%	毎年平均80%以上	
課題認識	令和4年度の満足度は、全日制・定時制高校ともやや上昇した。一方で、進路に関する支援や資格取得の面で満足度の低下が見られ、入試や就職試験の評価の多様化により、これまでの進路指導の知見での対応が難しくなっていることなどが伺える。				
今後の取組	授業、校外実習や学校行事、部活動等、対面でこそ学べる学びを充実させるとともに、進路指導の面でも情報収集を強化し、不安なく進路選択ができる環境づくりに努める。				

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】

指標17		高専卒業生（本科・専攻科）の学生満足度、学習・教育目標の達成度				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
高専卒業生 (本科・専攻科)	学生満足度 (授業、学生生活、就職進学等を各5段階評価)	平均3.82	平均3.91	平均3.79	毎年平均3.5以上	○
	学習・教育目標の達成度 (学生の自己評価の平均)	平均75.6%	平均77.4%	平均78.2%	毎年平均75%以上	
課題認識		学生満足度、学習・教育目標の達成度は、ともに目標を上回っているが、施設や設備の老朽化に対応する必要がある。				
今後の取組		令和5年4月より神戸市外国語大学と同一法人下で一体運営し、施設や設備の老朽化等の対応も含め、より柔軟で効率的な組織運営に努め、更なる教育の質の向上に取り組んでいく。				

【指標 18～20 学校の組織力強化】

(重点事業9)

指標18		主幹教諭の配置				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
		未配置6校 (分校を除く)	未配置校4校 (分校を除く)	全校配置 (分校を除く)	役割を明確化した上で未配置校解消	○
課題認識		未配置校への配置については順調に進んでいるが、主幹教諭の職責・役割を含む標準的業務の整理に取り組んでおり、校長・教頭の支援をはじめ、学校の組織力を高めるための能力開発を図る必要がある。				
今後の取組		3年計画での未配置校への配置は計画通り進み、R5.4.1からは全校に配置(分校を除く)。今後も学校規模に応じた適正配置に努めていく。また、主幹教諭の標準的業務の整理を行ったことを踏まえ、令和4年度より人事評価において主幹教諭としての評価基準を設定した。令和5年度以降も適正な人事評価を行っていく。				

指標19		総務・学習指導担当の小学校配置				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
		146校	146校	146校	一部の小規模校を除く、配置計画校全校(146校)に配置	○
課題認識		令和2年度に当初の配置計画校への配置は完了した。				
今後の取組		令和5年度からは活用方法を拡充したうえで、令和6年度より小学校全校に対し配置するとともに、各学校の組織力の強化やポストの有効活用が図られるよう、学校状況等に応じて教職員定数を配当していく。				

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】

指標20	教頭等の業務を補助するスタッフ（スクール・サポート・スタッフ）の配置				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	（目標値）令和5年度末	進捗
	160校	163校	160校	小規模校を除く全校に配置	○
課題認識	スクール・サポート・スタッフの配置については、学校規模の他、学校運営体制の強化の必要性等を考慮し、学校の状況に応じた最適な配置を行っていく必要がある。				
今後の取組	令和5年度以降も最大限の成果を上げられるよう効率的・効果的な配置に取り組む。				

【指標 21～23 働き方改革の推進】

（重点事業 10）

指標21	勤務時間外在校時間				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	（目標値）令和5年度末	進捗
	小学校39時間 中学校51時間 高校（全日制）38時間	小学校38時間 中学校51時間 高校（全日制）36時間	小学校36時間 中学校52時間 高校（全日制）37時間	各年度前年度比 10%減	△
指標22	年次有給休暇と夏季休暇をあわせて10日以上取得した教職員				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	（目標値）令和5年度末	進捗
	79.1%	89.0%	91.4%	教職員の90%以上	○
指標23	多忙感の改善を実感する教職員				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	（目標値）令和5年度末	進捗
	30.0%	33.0%	31.0%	教職員の80%以上	△
課題認識	教職員の勤務時間外在校時間は、ほぼ令和3年度と同様の水準で推移している。引き続き多忙感の改善など質的な面も含めて、実効性のある教職員の多忙化対策を進めていく必要がある。				
今後の取組	引き続き学校園・事務局が連携し、学校や事務局で行ってきた業務・活動の「これまでの当たり前」の見つめ直しや、役職や職種に応じた業務の標準化を一層推進するとともに、管理職と働き方改革推進担当者を中心とした各学校における組織的な働き方改革を推進する。				

【指標 24 女性活躍の推進】

（重点事業 10）

指標24	管理的地位にある教職員に占める女性教職員の割合				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	（目標値）令和5年度末	進捗
	15.4%	17.1%	18.8%	20%以上	○
課題認識	昨年度より1.7%増加したものの、目標達成に向けて、より一層、計画的な女性管理職人材の育成・活用を推進することが必要である。				
今後の取組	学校園・事務局における業務改善や様々な休暇制度を利用した多様な働き方の推進に取り組み、女性教職員が働きやすい職場環境の構築を図る。また、キャリア形成を念頭においた人事異動や研修を行い、管理職人材の育成に努める。				

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】

【指標 25 学校施設の機能向上】

(重点事業 11)

指標25	トイレの洋式化				
整備率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
	88.2%	100%	100%	完了	○
課題認識	洋便器率の低い学校の改修を進める必要がある。				
今後の取組	各学校の状況を確認しながら、和便器の洋便器化改修を進めていくとともに、障害の有無や性別等に関わらず様々な人々が利用しやすいトイレを、「ユニバーサルトイレ」として計画的に整備していく。				

【指標 26～29 ICT 学習環境の整備・活用】

(重点事業 12)

指標26	全普通教室への大型提示装置（電子黒板機能付プロジェクタ等）整備率（小・中・特別支援学校・高校・高専）				
整備率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
	81.9%	100%	100%	100%	○
指標27	全普通教室への無線LAN 整備率（小・中・特別支援学校・高校・高専）				
整備率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
	100%	100%	100%	100%	○
課題認識	令和3年度に整備が完了した。				
今後の取組	令和5年度は、中学校・特別支援学校の理科室に電子黒板、中学校・高等学校の図書室に無線LANの整備を予定している。				

指標28	授業にICTを活用して指導する能力があると考える教員の割合				
整備率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(目標値) 令和5年度末	進捗
	67.6%	74.3%	75.0%	100%	△
課題認識	電子黒板等のICT機器を活用して指導する場面は増えているが、学習用パソコンを効果的に活用する能力については、教員間で差が生じていることが課題である。				
今後の取組	ICTの効果的な活用事例や授業教材等を全教員が共有・活用できる教員用ポータルサイトを一層充実させる。また、活用が進んでいない教員に対し、指導主事等が個別に訪問し支援や指導を行い、教員のICT活用能力を高めていく。				

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】

指標29	小・中学校、特別支援学校（小・中学部）に通う児童生徒へのPC（タブレット）配備率				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	（目標値）令和5年度末	進捗
	100%	100%	100%	100%	○
課題認識	令和2年度に配備が完了した。				
今後の取組	授業以外においても、放課後学習や家庭学習における予習・復習の際にも活用するなど、用途を広げ、学びの充実につなげていくとともに、端末を使用するうえでのルールやマナー等、情報モラル教育について、指導を行う。				

【進捗：○…概ね想定どおり進捗している項目 △…進捗上、課題の見える項目】